



日頃よりご支援・ご声援を賜り心より感謝申し上げます。今年度の学校評価だよりでは、保護者・児童・職員アンケート結果（満足度指標）だけでなく、成果指標や努力指標を取り入れ、より客観性を持たせ、特に達成度判断基準を設けることで、本校の取組が目標に達しているかどうか明確にしました。この学校評価の結果をもとに、今後もよりよい学校生活の充実に向けて、保護者・地域の皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年9月30日 能登町立鶴川小学校長 富水 知子

令和6年度 第1回 学校評価（7月 中間評価）報告 能登町立鶴川小学校

重点目標	自己評価					備考
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	
確かな学力	総合的な学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習で補強する。 授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面の設定。 国語検定、算数検定の取組 	【成果指標】 各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の結果が県平均・町学力調査の結果が国や県平均を上回っている教科が全体の A: 60%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	3～6年の学力調査は合わせて12教科あり、全国や県の平均を上回った教科は6教科だった。問題文の読み取りや複数の情報を整理して正しく表現することに課題が見られた。まずは、基礎基本の徹底を授業や宿題を通して取り組んでいく。	B 主担当: 大谷 評価方法: 学力調査 4月・12月 CRT 評価実施時期: 8月、1月
	学力向上プランの推進	<ul style="list-style-type: none"> 考えを伝え合う場の設定 キーワードの共有 自分の考えを書く場の設定 相手意識をもって話す・聞く指導 	【満足度指標】 相手の話をしっかり聞いたり自分の考えを伝えたりすることができる力が児童に身に付いている。	学習アンケートで「キーワードを使って自分の考えを書いたり話したりすることができた」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	学習アンケートにおいて肯定的な評価は、85.3%だった。児童の評価は高いが実際の授業での取組「キーワードの提示」の達成度は高いとは言えない。表現に必要な用語を明確に黒板に提示し、表現に生かせるようにしていく。	B 主担当: 大谷 評価方法: 児童に対する学習アンケート 評価実施時期: 7月、1月
豊かな心	明るい挨拶があふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班での「あいさつ運動」を継続し、よい挨拶をしている児童を全体で紹介することで、挨拶の習慣の定着を図る。 	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「いつも大きな声で気持ちのよいあいさつをしている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の70%未満	毎週火曜日に行っている「あいさつ運動」で縦割り担当の先生が担当色の児童の挨拶の評価をしたり、ランチルームで上手な挨拶をしていた児童を紹介をしたりしてきた。また日々の挨拶について職員が評価する機会も多かった。挨拶が自分からできない児童もいるため、個に応じた指導を行っていく。	B 主担当: 吉村 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	良好な人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 勉強や行事等で、各自に目標を持たせ、粘り強く取り組むようにする。 相手の気持ちを考えた思いやりの心を育む取り組みをしていく。 	【満足度指標】 児童が学校生活の中で友達と仲良く勉強したり遊んだりしていると感じている。	児童アンケートで「友達と一緒に遊んだり、活動したりするのは楽しい。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の60%以上	体育館や校庭で遊ぶ児童が多く、異年齢を通して交流して仲良く遊ぶ姿がある。遊びのルールなども代表委員会の中で話し合い、全校集会などで共有することができた。今後も、異学年で関わる場を設定し、児童同士の良好な関係作りを進めていく。	A 主担当: 山本 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通してスポチャレいしかわの種目に取り組む。 体育の時間に、児童の体力が高まるよう、運動意欲と技能の向上、運動時間の確保に努める。 マラソン大会に向けて、持久力をつける取組を計画的に取り入れていく。 	【成果指標】 体力テストの2項目において、県平均や昨年度の平均記録を上回っている。	体力テストの「立ち幅跳び」「反復横跳び」の平均記録が、県平均を上回っている学年(部門)の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	立ち幅跳び、反復横跳びともに、女子は、4～6年で県平均を上回っている。男子は5・6年で県平均以下であった。震災で3カ月程度まとまらないうちを動かす機会がなかった影響は出ている。しかしながら、昨年度よりも指数で下がっているため、2学期以降も体育科では、運動量の確保を目指す。	B 主担当: 梅木 評価方法: 体力テスト「立ち幅跳び」「反復横跳び」 評価実施時期: 6月、1月
	健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「元気ハッピー貯金」を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等について指導する。 朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育を行う。 	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「子どもは、ゲームやインターネットの約束を守っている」という項目に肯定的に回答した保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケートで肯定的な評価が82.9%であった。児童の生活や実態を踏まえた学級や個人での保健指導を行い、生活習慣の定着を図っていきたい。また、元気ハッピー貯金や家庭でのメディアルールの作成を2学期以降も継続して行っていく。	B 主担当: 藤澤 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
安全・安心な学校	安心できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解の会での共通理解や共通指導を徹底し、児童のよりよい人間関係の構築に努める。 学習目において、個に応じた指導を行う。 子どもの自己肯定感を高める取組をしていく。 	【満足度指標】 自分のよいところやがんばっているところに気づき、自己肯定感が高まっている。	児童アンケートで「先生は、自分のよいところやがんばっているところをほめてくれる。」という項目に肯定的に回答した児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A評価が63.4%、B評価が34.1%とA評価の割合が高く、授業や学校生活の様子を日々先生方がよく観察し、褒めてきたことが結果につながった。その場で児童に伝えられなかった場合も、担任の先生に知らせ、本人に伝えてもらうように頼む様子も見られ、学校全体で意識していた。今後も児童を学校全体で見守っていくようにする。	A 主担当: 吉村 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を通して非常災害発生時の避難行動の仕方を身につけさせる。 保護者が連絡、相談したことに対して、誠意を持って対応している。 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、迅速に対応していく。 	【満足度指標】 保護者が学校の情報について、情報を迅速に発信していると感じている。	保護者アンケートで「学校は、緊急メールやお知らせなどで、迅速に情報を発信している。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケートでの肯定的評価が100%であった。6月の震度5強の地震の際も、メールにおいて、学校の安全や登校に関する情報を送信することができた。1月の震災後も余震等の災害の恐れがあるため、今後も緊急事態における学校の情報を正確に速やかに発信できるように訓練や研修を通して初動の動きを全職員が理解し実践できるようにしていく。	A 主担当: 高山 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
家庭地域との連携	地域の教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践を行う。 	【満足度指標】 生活科、総合的な学習、道徳などの授業で、地域の人材を活用する授業を行っている。	職員アンケート「地域の素材をもとに学習活動を行ったり、地域人材を活用したりして「ふるさと教育」を積極的に展開している。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	里海教育(海洋教育)を中心に、地域人材・教材を活用できている。これまでの活動から協力してくださる地域人材が多い。これまでの活動の積み重ねにより、毎年似たような活動が続いている。今後は、教師一人ひとりが地域人材やモノを新たに発掘することも必要である。	B 主担当: 松橋 評価方法: 職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実により、保護者が学校経営方針や教育内容を理解できるように努める。 	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校は、学校だより、ホームページなどを通じて、学校での教育活動の様子を積極的に伝えている。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	保護者アンケートでは100%の肯定的な評価をいただいた。月一回の学校便り発行や週3回以上のホームページ更新を行ってきたが、教職員アンケートの関連する項目では、「あまりあてはまらない」の評価があった。学級だよりや各種たよりを含め、発信の回数の差が見られた。各便りの月当たりの目標発行回数を決めるなど、改善を進めていく。	A 主担当: 高山 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
組織力向上と働き方改革	組織力向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修や授業研究などを通して授業力の向上を図っている。 校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。 	【満足度指標】 校務分掌において意欲的に取り組んでいる。	職員アンケート「校務分掌や得意分野において意欲的に取り組んでいる。」に対し、肯定的な回答をした職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	アンケート結果では、肯定的な回答は87.5%であった。意欲の部分は目には見えないが、「あてはまる」と回答した職員が75%もいることから、それぞれの分掌担当者が意欲的に取り組んでいることが伺える。得意分野が分掌に必ずしもマッチしているわけではないため、担当者が提案した内容は協力して全職員で積極的に取り組んでいくようにする。	B 主担当: 梅木 評価方法: 職員アンケート 実施回数 評価実施時期: 7月、1月
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革を推進する。 公務支援システムの活用による業務改善を増やす。 	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	月の平均退勤時刻が19時以前の職員の割合が、 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	目標退勤時刻「19時」を達成した職員の割合において、4～6月の平均値が70.4%であった。震災に関連する業務の増加、複式学級における授業準備物の多様化、少人数学校における校務分掌の重複した割り当てなどが原因と考えられる。学校の取組の精選、さらなる業務の平準化を図っていく必要がある。	C 主担当: 高山 評価方法: 勤務時間記録表、職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月